

塾員招待会の変遷

慶應義塾では塾員（卒業生）を大学に招待する「塾員招待会」を開催している。現在、卒業式に卒業25年を迎える塾員、入学式に卒業50年を迎える塾員、そして例年5月に卒業51年以上の塾員を招待している。塾員数の増加などによって開催・運営形態は変わってきたが、塾員と義塾、そして塾員同士の絆を確かめる場として受け継がれてきた。

各界で活躍する塾員が 門出に立つ塾生を激励

第1回の塾員招待会は、1953年に卒業25年目と50年目にあたる塾員、さらには51年以上の塾員を三田山上広場で開催された卒業式の来賓として招待したことに始まる。

招待状は全国の対象塾員1089名に発送され、約1割の110名が出席。出席者は三田の学生ホールで開催された午餐会で旧交を温めた。このときの最年長の出席者は「製紙王」と呼ばれた実業家であり、理工学部の礎を築いた藤原銀次郎（1889年卒業）で、当時83歳だった。

塾員招待会は、世間の銀婚式や金婚式にならない、働き盛りの卒業25年目と、古希を超えた卒業50年目の塾

員への祝福を意図していた。同時にこれらの人々に若き日々を追想しながら、人生の門出に立つ塾生を激励してほしいという思いも込められていた。

参加者の増加により 変わる開催・運営形態

1986年になると出席者の増加により、卒業51年以上の塾員だけを気候の良い5月に招待するようになった。第1回の会場は三田キャンパス西校舎518教室（現在の西校舎ホール／式典）と大学直営食堂（現在の生協食堂／懇親会）で、出席者の中には高村象平、佐藤朔の元塾長の姿も見られた。

出席者が約1000名となった1988年の第3回卒業51年以上塾



1986年5月17日 卒業51年以上塾員招待会

員招待会からは午前と午後の2回に分けた開催となり、さらに約1700名の出席者があった1994年からは西校舎中階の山食も新たに会場に加わった。また、同年からは卒業50年塾員招待会が卒業式から入学式への招待に変わっており、ほぼ現在と同じ実施形態となっている。

その後、卒業51年以上の出席者は2000名を超え、1999年より会場を日吉記念館に移し、二部制を廃止して一括開催されることになった。2006年には日吉記念館と日吉会堂の2カ所で時間をずらして開催し、さらに商学部第1期生が卒業51年を迎えた2012年には出席者が約3900名に及び、食堂棟が3会場目として使用された。翌2013年からは日吉記念館で午前と午後に分けての開催となり、再び二部構成スタイルの導入となった。

2009年、日吉記念館建て替え計画が持ち上がったため、初めて塾外で開催された。会場はグランドプリンスホテル新高輪国際館。パミールで、開催にあたって品川駅から案内・誘導のため職員・塾生が多数動員されている。結局、このときの日吉記念館の建て替えは見直され、耐震補強工事のみを行ったため、翌年から2015年までは日吉キャンパスでの開催に戻っている。

塾員同士の親睦に加えて 記念事業やイベントも

2019年は日吉記念館建て替え



2019年卒業51年以上塾員招待会

工事に伴い、卒業式、入学式ともパシフィコ横浜展示ホールで開催され、その後に卒業25年塾員招待会をヨコハマグランドインターコンチネンタルホテルで、卒業50年塾員招待会を横浜ロイヤルパークホテルで開催した。

卒業25年を迎える塾員は、記念事業として学部を超えた同期の絆を深める大同窓会や後輩を支援する奨学金の寄付活動などを行っている。寄付をした塾員には「第2の卒業アルバム」となる記念誌が渡される。また、卒



2019年卒業50年塾員招待会



2019年卒業25年塾員招待会

業50年を迎える塾員も大同窓会やさまざまなイベントを開催して大いに盛り上がり、施設の整備を目的とする寄付活動を行っている。なお、その年の慶應連合三田会大会へも招待され、塾長が出席する懇親会が催されている。

塾員招待会をきっかけに多くの塾員が同期の仲間と再会し、新たな絆を結んできた。今後も時代と義塾の変遷とともに開催形態や会場などの見直しが行われるであろうが、義塾と塾員の絆を表す象徴的な行事として大切に受け継がれていくだろう。